

技術報告集発行に寄せて

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-06-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 木村, 雅和 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00009490

技術報告集発行に寄せて

技術部技術部長 木村雅和

第 21 回静岡大学技術部技術報告会の開催にあたり名古屋大学、名古屋工業大学、三重大学、浜松医科大学からご報告とご参加をいただきました。この場をお借りして御礼を申し上げます。

この技術報告会は、技術部が企画運営し報告集と言う形で成果を残す大変有意義な会であると認識しております。このような場で多くの技術職員が自身の業務について発表する事は自己の向上は無論のこと、相互理解の場として大変重要な役割を果たしております。本年も実に多様な技術発表が行われました。これは技術職員の業務が多岐に渡り、大学の広範な教育研究に深く関与し、その根底を支えていることの現れであり敬意を持って感謝しております。

さて、大学改革の流れの中で全国の大学を 3 類型に分ける施策が進められ、静岡大学は重点支援①：「主として、地域に貢献する取組とともに、専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で世界・全国的な教育研究を推進する取組を中核とする大学」を選択しました。地域貢献という優しげな言葉とは裏腹、求められるアウトプットは非常に高く、新たな産業の創出あるいはそのシーズによって地域の活性を生み出すことが求められています。教育環境の充実による優秀な人材の輩出とイノベーションを推し進めなければなりません。また、世界や全国的な教育研究推進を実現するためには農学部フィールド「教育関係共同利用拠点」、電子工学研究所「共同利用・共同研究拠点」事業も充実させなければなりません。

このような複雑な施策の中で技術部は再雇用職員を含めた効率的な人材活用を求められ、組織や業務の見直しが求められていることをご理解いただきたいと思います。

みかけや数合せにとらわれず、技術職員の持つ高いポテンシャルを何処に傾注するのか、統括技術長はじめ技術長、部門長の先見性と指導力が求められています。